

[大阪府] 高槻市立第四中学校区ゆめみらい学園

高槻市立富田小学校
高槻市立赤大路小学校
高槻市立第四中学校

1. 学校・市町村概要

- 教育目標：今の課題に向き合い、未来をよりよく生きる力を育む
～「社会参画力」を育む授業作りを校区一貫して進める～
- 所在地：(富田小) 大阪府高槻市昭和台町1丁目1-1
(赤大路小) 大阪府高槻市赤大路町15-1
(第四中) 大阪府高槻市大畑町4-4
- 児童生徒数 (H29.5.1時点)



富田小学校



赤大路小学校



第四中学校

学年	小学校(富田小と赤大路小の合計)								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	7	8	9	特別支援学級	計	
児童生徒数	128	127	125	123	117	109	59	788	103	104	102	21	330	1118
学級数	4	4	5	4	4	5	12	38	3	3	3	4	13	51

- 高槻市概要：〔人口〕353,719人 〔学校数〕小学校41校, 中学校18校

2. 導入経緯

- 平成22～25年度 研究開発学校指定(文部科学省)
- 平成22～24年度 「ラーニングSプロジェクト」小中一貫教育推進モデル校指定(高槻市教育委員会)
- 平成25年度 「教育力向上事業による連携型小中一貫教育研究校」委嘱(高槻市教育委員会)

3. 小中一貫教育の取組概要

- ねらい** ● 今の課題に向き合い、未来をよりよく生きる力を育てる
～「社会参画力」を育む授業作りを校区一貫して進める～

- 形態・施設** ● 施設分離型

- 第四中学校 北校舎・西校舎・南校舎がつながり、エレベーターが設置されている。
- 富田小学校 校庭が広く、北棟・管理棟・特別棟に分かれている。
- 赤大路小学校 南校舎・北校舎に分かれている。

教職員体制

- 校長:各校に配置 ● 教職員:一部教職員に兼務発令 ● 小中一貫教育コーディネーター:指名あり

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

- 教育課程の特例:実施なし
- 区切り:4-3-2
- 行事:第6学年における「3DAYS STUDY」(総合的な学習の時間「いまとみらい」)の中学進学に向けた取組
第4学年における「2分の1成人式」

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制:一部教科担任制(第5学年から理科, 音楽科)
- 相互乗り入れ:総合的な学習の時間に乗り入れ

児童生徒の異学年交流

- 「3DAYS STUDY」(第6学年・第7学年)
「学校の温度計をあげよう ゆめみらい学年つながりアップ大作戦!」(第1学年・第6学年・第7学年)
「ゆめみらい学園児童生徒議会」(校区あいさつ運動, クリーン大作戦, ゆめみらい学園新聞発行)
「学校温度計をあげよう『わくわくスタートプロデュース』」(園児・保育園児・第5学年)

市町村教育委員会等による支援

- 高槻市は、「連携型小中一貫教育の推進の方針」の下, 全ての中学校区で小中一貫教育を実施。
- 「特色ある学校づくり推進事業」について, 中学校区に予算を配当し, 中学校区の取組を支援。

効果的な学習指導を行うためには、それぞれの教科等の系統性・連続性を踏まえるとともに、授業での指導の流れなど各教科等にまたがる指導方法等についても、学校全体で、発達の段階を踏まえた一定の方針を持ち、発展的な指導を行うことが重要です。このことにより、学年や学級が変わってもより多くの子供たちが見通しを持って授業に臨みやすいといった効果が期待されます。高槻市立第四中学校区ゆめみらい学園では、校区で育みたい力として「社会参画力」を捉え、9年間を通して子供たちが安心して学び、学力を高めていけるように、つきたい力を細かく設定するとともに、共通の学び方や学習スタイルを大切にしています。

● 校区が考える「社会参画力」

- ・ 矛盾や困難を乗り越え、じりつして生きていく力（じりつする力）
 - ・ 社会の中から課題をとらえ解決する力（考える力）
 - ・ 人や社会に働きかける力（つながる力）
 - ・ 学ぶ意味をとらえ、学んだことを社会にいかす力（いかす力）
- また、それぞれの力を構成するものとして10の力を整理しています。（※右図）



校区が考える「社会参画力」を全ての教師が共通理解した上で、次のような学び方や学習スタイルを考案し、教科等の授業において横断的に取り組んでいます。

● 新・社会参画力 ステップ表

「社会参画力」を段階的に育むことができるよう、子供たちの現状から、ステップごとに育みたい「社会参画力」を具体的に設定しています。

今の課題に向き合い、未来をよりよく生きる力を育てる

学習指導要領 の領域	学習指導要領 の目標	今の課題に向き合い、未来をよりよく生きる力を育てる		
		ステップ1	ステップ2	ステップ3
道徳	自分の決めた行動しようとする	状況が踏まえて、自分で決めて行動しようとする	状況が高まれば、自分で決めて行動しようとする	状況が高まれば、自分で決めて行動しようとする
	物事に楽しんで取り組もうとする	難しそうなどでも取り組もうとする	自分のできることを見つけて取り組もうとする	自分のできることを見つけて取り組もうとする
総合的な学習の時間	うまくいかない時でも、投げ出さずに取り組む	困難であっても、最後まであきらめずに取り組む	解決が困難だと感じることに対しても、乗り越えようとなげ強く取り組む	解決が困難だと感じることに対しても、乗り越えようとなげ強く取り組む
	自分が何をすべきか理解できる	課題を解決するための方法を考える	よりよい課題解決の方法を選択できる	よりよい課題解決の方法を選択できる
外国語活動	計画にそって取り組む	よりよい解決のために計画的に取り組む	より効率的に課題解決に取り組む	より効率的に課題解決に取り組む
	取り組んだことを振り返る	取り組んだことを振り返り、学びを整理する	学んだことやわかったことを検証し、言語化する	学んだことやわかったことを検証し、言語化する
外国語学習	相手を意識して、聴いたり話したりする	ちがう意見の人の考えを大切に、聴いたり話したりする	多様な立場や考えを尊重して、聴いたり話したりする	多様な立場や考えを尊重して、聴いたり話したりする
	友だちと力を合わせて取り組む	自分の周りにいるいろいろな人と協力する	自分の関わる社会の範囲を広げ、さまざまな人と協働する	自分の関わる社会の範囲を広げ、さまざまな人と協働する
外国語コミュニケーション	自分の考えや学んだことを、ていねいに伝える	自分の考えや学んだことを、わかりやすくよりよい方法で発信する	自分の考えや学んだことを、適切に効果的な方法を用いて発信する	自分の考えや学んだことを、適切に効果的な方法を用いて発信する
	取り組んだことの意味を感じられる	取り組んだことを自分の生活にいかす	取り組んだことの意味を感じ、自分たちの「みらい」にいかす	取り組んだことの意味を感じ、自分たちの「みらい」にいかす

● コミュニケーション力 ステップ表

3校全ての教室にプレートにして掲示し、子供たちの「聴き方 受けとめ方」「話し方 伝え方」への意識を高め、コミュニケーション力を育成しています。

※「第1学年」「第2・3・4学年」「第5・6・7学年」「第8・9学年」の区切りで作成

6年生 コミュニケーション力 ステップ表	
5・6・7年 きき方 受けとめ方	5・6・7年 話し方 伝え方
話している人の考えをきいて、自分の考えを広げる <small>(自分たちがわかるようにきく・きかせる)</small>	4 なぜそのように考えたのか、根拠や理由が(学びの倉庫を活用して)伝わるように話す <small>(～をきいたら、きいたらから、OOと聞きます)</small>
話している人の考えと自分の考えを比べながらきき、感想や意見をもつ <small>(ここが同じ、ここはちがう、～はいいけどOOはちがう)</small>	3 ほかの人の考えと自分の考えを比べながら話す <small>(～をきいたら、OOと聞きます)</small>
質問ができるように、話の中心に気をつけてきく <small>(なぜOOと思ったのか、考えたのだろう)</small>	2 話す事から順序立てて、伝えたいことの中心がわかるように話す <small>(はじめに、次に)</small>
話している人の方を向いて、反応しながらきく <small>(目と耳と心で) (同じです、もう一度言ってください) うなづく</small>	1 きいている人の方を向いて、全員にきこえる声ではっきりと話す <small>(みんなにきこえるように、みんなの方を向き声をしっかり出す)</small>

● S-RPDCA学習サイクル



課題解決方法を習得する学び方の学習サイクルです。生活科・総合的な学習の時間「いとみらい」や各教科授業をはじめとして、様々な場面で活用しています。

小中一貫して共通の学習サイクルを用いて学び、成功体験や困難に向き合い解決する経験を繰り返すことにより、「社会参画力」を育みます。

● 学習スタイル「ソロⅠーコミーソロⅡ」

9年間を通して、「ソロⅠーコミーソロⅡ」の学習スタイルを大切にしています。課題を自分と仲間の力で解決することで、学びを広げ、深めることができます。

【ソロタイムⅠ】授業で解き明かす問いを、まず自分の力で解きます。

【コミュニケーションⅠ】Iの意見を出し合い、友達と意見を交流したり、共に問いを解決したりして、学びを広げ深めます。

【ソロタイムⅡ】深まった学びをもう一度自分に返す時間をとり、学びを定着させます。

5. これまでの成果と課題、今後の取組

「社会参画力」に関する効果測定アンケートによると、右のように「学んだことを自分の生活で生かすことができる(いかす力)」の質問において、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は2017年の測定において73.8%となり、2016年の1回目から4.8ポイント向上していました。

学習サイクルをはじめ、学習スタイル、ステップ表等を学校・学年で横断的に指導し、授業で繰り返し扱うことにより、「社会参画力」と各教科等との関連が図られ、9年間を一貫した校区の方向性をそろえることができました。

学んだことを自分の生活で生かすことができる

